

魚をとる道具には
いろいろな種類があります



大手川調査で使った漁具

投網



タモ網



カニ籠



セル瓶

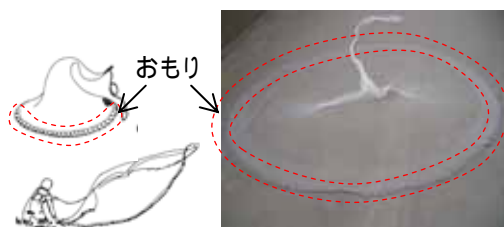


ウナギ籠



定置網

とあみ 投網



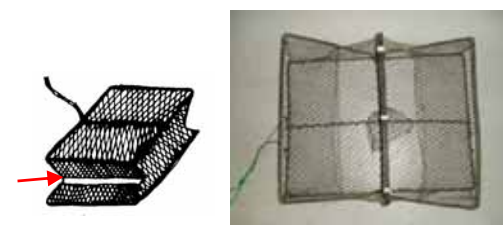
- ・投網は、水深の浅いところや、平らな川の底にいる魚をとる時に、よく使われます。
- ・投網の一番外側におもりがたくさんついていて、網がすぐに川底につくようになっていきます。
- ・網の周辺は袋になって、魚が逃げようとする、その部分に入って逃げられない仕組みになっています。
- ・投網の口を大きく広げるように投げるまでは、何度か練習が必要です。

たもあみ タモ網



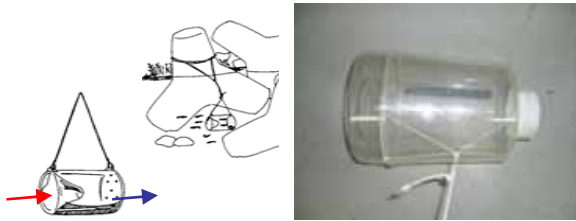
- ・タモ網は植物帯、川底の石の下、砂・泥にもぐっている小さな魚をとる時に、よく使われます。
- ・タモ網の先端(左下絵の)の部分をついて川の底につけ、川の流れてくる方から、足でふんだりしておいこみます。
- ・タモ網ではたくさんの種数をつかまえることができます。

かにかご カニ籠



- ・カニ籠は、川の底に設置して、底にすむカニをとる時に、よく使われます。
- ・カニ籠の中にエサ(魚の切り身など)を入れて、カニをおびきよせます。
- ・カニ籠は、カニの他にエビや小型の底魚をつかまえることもできます。
- ・カニ籠の両端中央(左下絵の)に入口があり、一度入ったら出られない仕組みになっています。

せるびん セル瓶



・セル瓶は、ヨシ帯や小石の下にすむ、水中を泳ぎ回る魚をとる時に、よく使われます。

・1～2時間程度設置したら、取りあげます。

・水と魚が左下絵の赤 から入って、水だけ青 からぬけ、魚は出られない仕組みになっています。

自分たちで漁具を作ろう！

うなぎかご ウナギ籠



・ウナギ籠は、ウナギやアナゴなど肉食の魚をとる時に、よく使われます。

・古く昔から竹ヒゴで作られた物が使われています。

・通常は日没後に設置して、翌日明け方に取りあげます。

・地域によっては、使用を禁止しているところもあるので注意が必要です。

ていちあみ 定置網



・定置網は、水中を泳ぎ回る魚から底にすむ魚、夜に動く魚等、また、小さい魚から大きな魚までいろんな種類の魚をとることができます。

・道具があれば誰でも簡単に設置でき、とれる物に個人差がみられません。

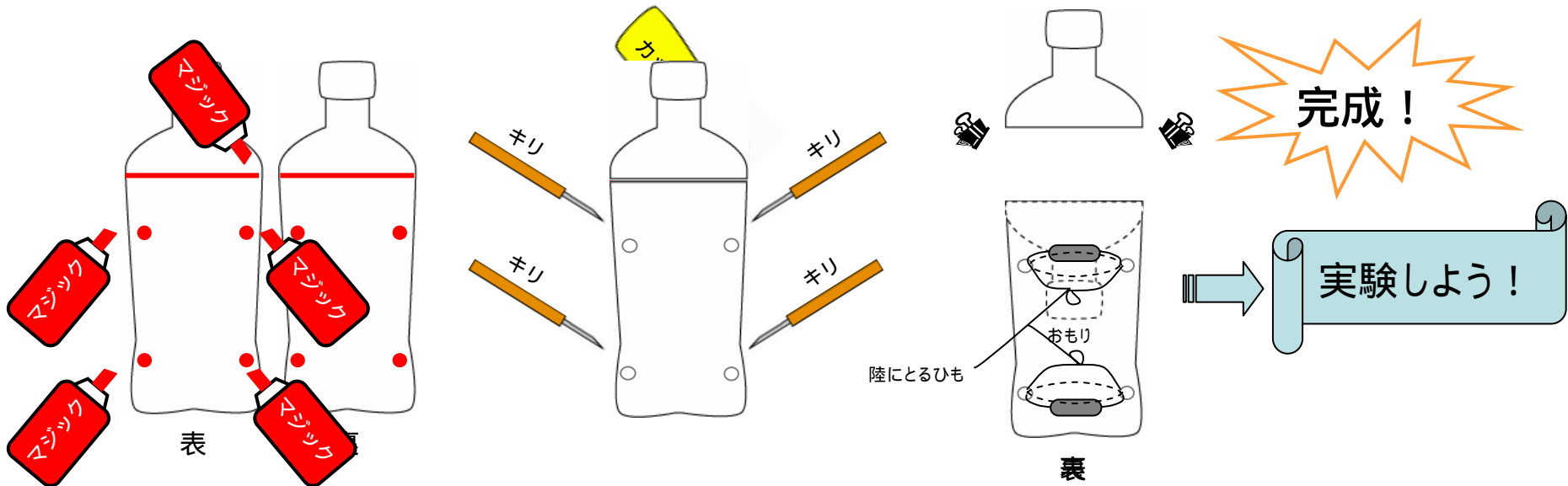
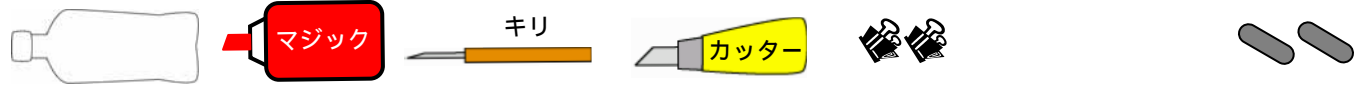
・通常は夕方に設置して、翌朝網に入った魚を取り出します。

・定置網は、流れてくる方に口を広げて設置します。

1. ペットボトルを使ってセル瓶を作ろう！

《用意する物》

・ペットボトル ・マジックペン ・キリ ・カッター ・クリップ ・ひも ・おもり2～4個



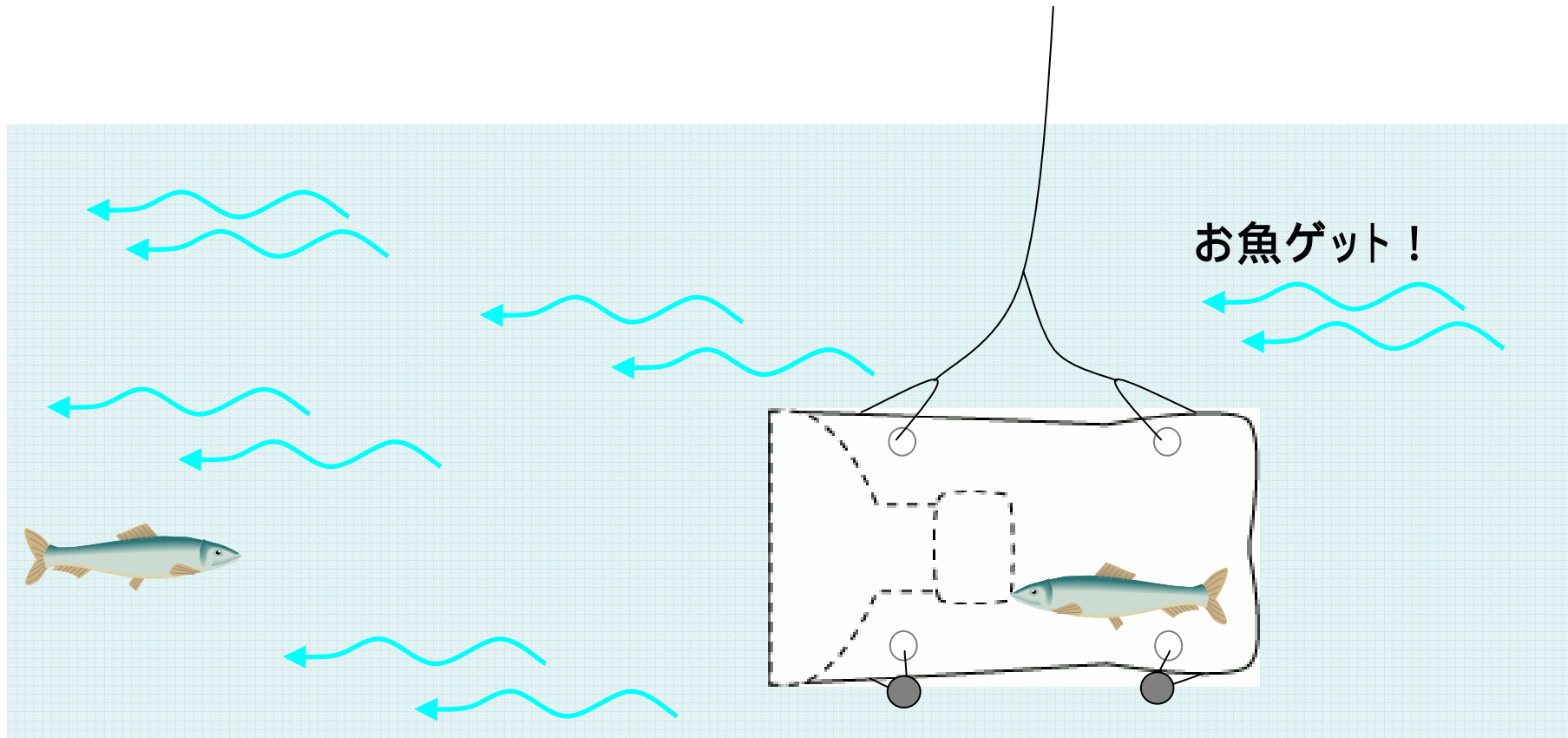
1. ペットボトルの上と下を切り離す線と、おもりと陸からとるひもをつける穴を、それぞれ4個ずつマジックで印しを付けます。

2. キリで穴を8個あけた後、カッターでペットボトルの上下を、切り離します。

3. 表側につり下げるロープ、もう一方におもりを取り付けます。
4. ペットボトルの口をひっくり返して、下の部分に合わせて、クリップでとめます。

川で実験しよう！

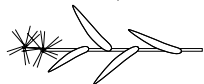
セル瓶は、なるべく水深が浅く、流れのゆるやかな場所に入れるのがよいでしょう。
セル瓶の口は川の下流に向けて入れるのがよいでしょう。
セル瓶を入れてから、1～2時間くらいであげるのがよいでしょう。



2. カニ釣り竿を作ろう！

《用意する物》

・ヨシのくき



・カッターかカマ



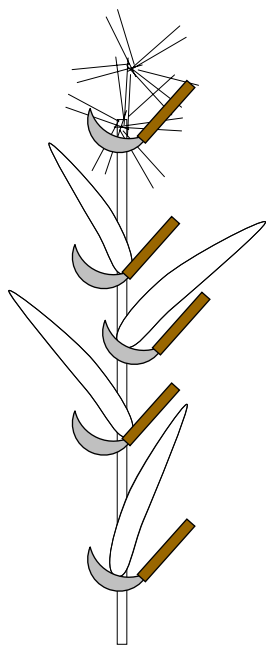
・タコ糸



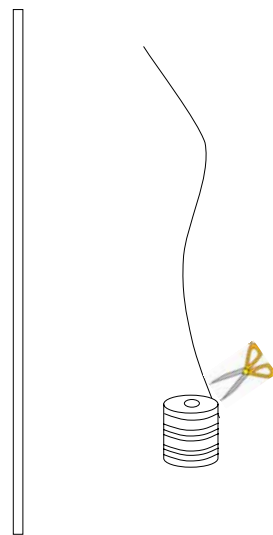
・ハサミ



・エサ



1. ヨシの葉などを切り落とし、くきだけにして、サオを作ります。



2. サオの先にタコ糸をつなぎ、サオの1.5倍くらいの長さで切ります。

色々なエサを使ってみよう！

1. ジャコ



2. はんぺん



3. サラミ



4. たくあん



5. スルメ



・

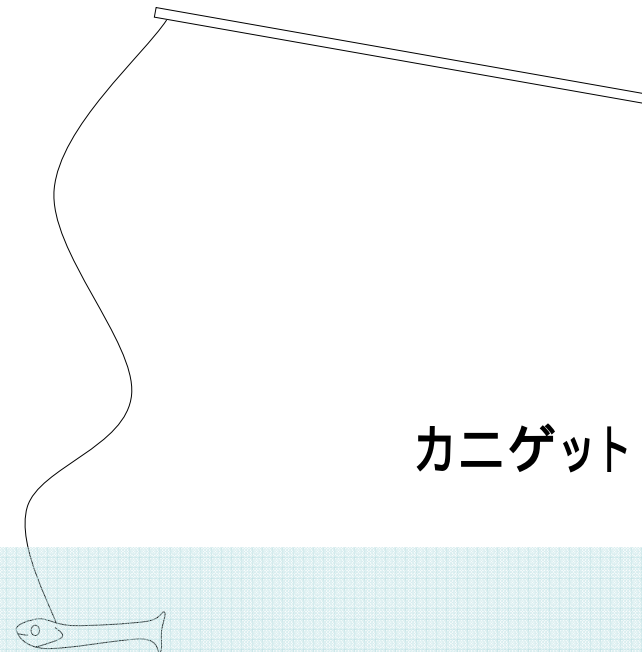
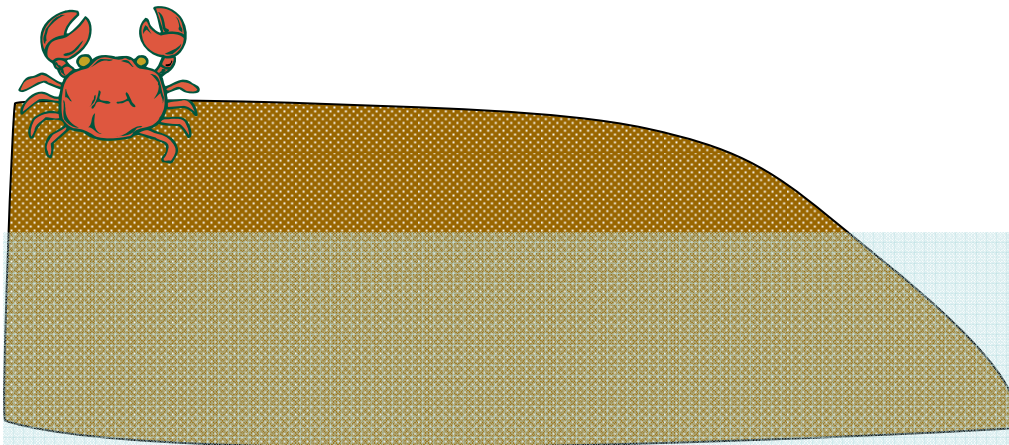
・

3. エサは色々なものを試してみよう！

川で実験しよう！

みんなで考えて、色々なエサを使って、
どのエサが一番良く釣れるか実験してみよう！

1. ジャコ 
2. はんぺん 
3. サラミ 
4. たくあん 
5. スルメ  など



カニゲット！